

第1回 規制改革推進会議終了後記者会見 議事概要

1. 日時：令和元年10月31日（木）17:00～17:14

2. 場所：合同庁舎8号館1階S101・103会議室

3. 出席者：

（委員）小林喜光議長、高橋進議長代理

4. 議事概要：

○司会 それでは、時間になりましたので、第1回「規制改革推進会議」後の小林議長、高橋議長代理からのブリーフィングと記者会見を行いたいと思います。

それでは、以後を小林議長に進行をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

○小林議長 ただいま第1回目の規制改革推進会議が開かれまして、今、ちょうど終了したところでございます。

互選によりまして、私、小林が議長に選任をされました。

議長代理は、議長が指名することになっておりまして、高橋進委員をお願いいたしました。

その後、規制改革推進会議の運営規則を決定いたしました。

総理が入室後、今後の審議事項につきましての意見交換ということで、各委員から抱負をそれぞれに御発言をいただきました。

私からは、議長としての抱負、今後の会議の運営方針につきまして、以下の内容を申し上げます。

総合科学技術・イノベーション会議の委員や、未来投資の構造改革決定推進会合の特にイノベーションの会合の会長を務めているという経験を生かしまして、Society5.0の実現に向けた成長戦略を進めるために、イノベーションを加速することになるような制度、あるいは規制の改革に取り組んでまいりたいと思っております。

日本企業がグローバルに活躍することが必然的に求められる時代にありまして、日本がグローバルに比較優位を持つために、国内の規制・制度はどうあるべきかを議論していきたいと思っております。

また、少子高齢化が進行する中で、医療や介護の効率化や将来を支える人材の育成は、極めて重要な課題でありまして、そういった観点からも、改革を進めてまいりたいと思っております。

とりわけ規制改革に取り組むに当たりまして、グローバル、デジタル、オープン の3つのキーワードをもとに、直ちにといいますか、非常にスピード感を持って、アジャイルに進めるべきだと考えております。

第一に「グローバル」。全てはグローバルな目線で物事を考えることが重要であると思

います。

第二に「デジタル」。ICT化、データの一層の活用、デジタルガバメント等、デジタル化を進めることは、経済成長のメインのエンジンであるという認識でございます。

第三に「オープン」。つまりオープンな場所で大いに議論をし、既存の心の岩盤を砕くということが重要かと思えます。オープンイノベーション等を推進するために、既存のサイロを砕き、破壊的なイノベーションを実現する素地を構築することが重要かと思えます。基本的には、いわゆる横串を刺すというところから、新しいものを生み出すことが重要ではなかろうかと思えます。

この3つのキーワードを旨としながら、委員の皆様の御協力をいただきながら、規制・制度の改革に取り組みたいと、こういった発言をいたしました。

その後、総理から、皆さん、既にお聞きになったとおり、以下の御発言がございました。

ビジネス、金融、農業、通信・放送、教育、医療など、あらゆる分野で過去の発想にとられることがなく、大きなビジョンを持って、未来を見据えた改革に絶えず挑戦していく必要である。

委員の皆様には、イノベーションの視点、グローバルの視点、そして、何よりもユーザーの目線に立って、大胆な改革案を構想していただきたいということです。

最後のほうで、規制改革は、これまでも、そして、これからも安倍政権の成長戦略の中核、すなわち、いわば一丁目一番地であるとおっしゃっております。

あわせて、北村規制改革担当大臣からは、以下の御発言がございました。

これまで現場を重視する議員として、さまざまな規制と向き合ってきたが、人口減少社会が進む中、また、さまざまな現場レベルの技術革新が進む中、実情に合わなくなった規制がたくさんあると肌で感じている。

特に地方の人手不足は、官民ともに極めて深刻であり、このままでは、地方の行政サービスの維持、地場産業の発展は困難であると感じている。

そうした経験や実感も生かして、担当大臣として、規制改革に取り組んでまいりたいと、以上が北村大臣の発言でございます。

その後、総理が退室された後、規制改革推進会議の議論について（案）というペーパーに基づきまして、今後の会議で議論する際の基本的な視点とその分野について、議論を行いました。

意見交換の中では、さまざまな意見が出たわけですが、特に5つを挙げるとしたら、他の会議体がさまざまあるわけですが、これとの連携をどう行い、また、規制改革推進会議そのものがどこを主体的にやっていくのか。

電子政府化の重要性、行政の電子化について、地方と中央との関係も含めて、デジタルガバメントと申しますか、時代が完全にデジタル化する中で、行政、あるいは政府そのものの変革をもっと加速しなければいけないだろう。

データ整備も含めましたEBPMと申しますか、エビデンスベースでのポリシーメイキング、

これについての考え方です。

先ほど横串と申し上げましたけれども、分野横断的にどういった形で規制を解きほぐしていくのかといった部分です。

今まで連続性という意味で、規制改革推進会議の大田弘子議長のもとで行われたフォローアップ、あるいは新しく今度は我々としてより力を入れようという成長戦略について、どんな新しいものを組み込んでいくかということも考えたいとおっしゃる委員もいたということでございます。

本日の議論も踏まえまして、次回の本会議におきまして、今後、重点的に審議する事項につきまして、決定をしていきたいと思っております。

以上でございます。

○司会 それでは、皆様からの質問をいただきたいと思えます。

挙手の上、マイクをこちらから渡しますので、所属、名前をお名乗りの上、質問をいただければと思います。よろしく願いいたします。

よろしいですか。最前列の女性、お願いします。

○記者 重点的に議論する事項を次回決定されるということですが、本日、総理から言及がありました金融とか、農業とか、通信・放送など、そういった分野が対象になってくるという理解でよろしいのでしょうか。

○小林議長 当然金融、ビジネス関係です。農業、水産業、あるいは通信・放送、先ほど申しましたような教育、医療、縦串と横串といいますか、そういったものであらゆる分野での改革、これに絶えず挑戦していく必要があるという御発言のとおり、具体的な検討項目を本日の議論も含めて、あるいは他の会議体との関係も含めて、さらに議論をして、次回の本会議では、そういったまとめをして、発表していきたいと思っております。

そうはいつても、先ほどの3つのキーワード、グローバルで、デジタルで、オープンなそういう時代でいかにイノベーションをもって、日本が国際的に比較優位な状態にそういった規制を取り外し、あるいは規制をすることによって、結果を出していくところにフォーカスしていきたいと思っております。

○司会 よろしいでしょうか。

○記者 2点、お伺いします。答申とか、提言、何かにまとめるといった見通しはありますでしょうか。

あと、もう一点は、今までの農林水産分野にさまざまな提言を規制改革推進会議として行われてきたと思えますけれども、今回、農林水産分野で特に重点的に取り組みたいテーマなどはありますでしょうか。

○小林議長 中間的な答申といいますか、常設化して、今の委員は2年間の任期という中で、一応来年の6月に基本的なところをまとめたいというのが直近の計画ですし、農林水産系ですと、本年6月に規制改革実施計画で、水産物の流通に関する総点検、あるいは農業用ドローンに関する規制の見直し等につきまして、本年度中に農林水産省等において検

討するということが定められておりますし、この内容をお配りしております重点的フォロー事項（案）の中にも記載をさせていただいていますが、まずは農林水産省等の取り組みをしっかりとフォローするということが大事だと思っています。

実施計画のフォローアップ以外に何をするかは、今後の委員間での議論を通じて決めていくべきものだと認識しております。現時点は、まだ何も決まっておられません。

○司会 いかがでしょうか。質問はもうございませんでしょうか。

○記者 前の規制改革推進会議の際は、年に2回答申をしていましたが、今回もそのぐらいのペースでやるという理解なのでしょうか。

○小林議長 前については、私は存じ上げていませんが、いずれにしましても、来年の6月にまとめた答申を出したいという計画であります。

○記者 確認ですが、それ以降の頻度に関しては、決まっていないということですか。

○小林議長 まだ完全には決めておりません。

○記者 ありがとうございます。

○司会 他にありますでしょうか。

○記者 先ほどの重点的に議論することというのは、きょう、ここに書かれている分野で6つ挙げられていると思うのですけれども、この中身を掘り下げて決められるという感じですか。

○小林議長 ここに書いてある分野は、どちらかという、縦軸です。一方では、デジタルかという、当然行政もかかわってきますし、横軸といいますと、デジタルという線で考えたり、イノベーションという線で考えると、全分野にかかわる案件ですし、だから、そういう意味で、各委員のスペシャリティーも考え、フォーカスする人間の配分とアイテム自体も重点化をどうしていくかというのは、まさにここ1カ月ぐらいで議論をして、結論を出したいと思っています。

○記者 ワーキング・グループをするとか、そういう議論の進め方については、きょう、お話しになりましたか。

○小林議長 基本的には、当然これだけ幅広いわけですので、何らかの形の分科会というか、実態を進める方策としては、ワーキング・グループは必然的に必要になるのではないかと考えています。

○司会 ありがとうございます。

質問はほかにございませんでしょうか。よろしいですか。

どうもありがとうございました。

それでは、第1回「規制改革推進会議」後の小林議長、高橋議長代理による記者会見を終了したいと思います。どうもお疲れさまでした。